2014 年に石狩浜で発見されたタイマイと思われる個体の漂着

志賀健司

A sea turtle that appeared to be hawksbill (*Eretmochelys imbricata*) stranded on Ishikari beach in 2014.

SHIGA, Kenji

漂着の状況

2014 年 5 月 6 日，北海道石狩市の石狩浜でタイマイ *Eretmochelys imbricata* と思われる個体の死亡漂着が発見された．タイマイは，太平洋，大西洋，インド洋の熱帯域に分布する，甲長が成体で 70 ～ 90cm に達するウミガメである．日本は太平洋の分布の北限とされ，沖縄以南の南西諸島で産卵することが知られている（千石ほか，1996）．環境省レッドリストでは絶滅危惧 IB 類（EN）に指定されている．日本近海で見られるウミガメは，アカウミガメ，アオウミガメ，タイマイ，ヒメウミガメ，オサガメの 5 種であるが，いずれの種も北海道沿岸で見られることは稀で，これまでにアカウミガメやアオウミガメの死亡漂着，混獲などの例がわずかにあるくらいである（ウミガメ協議会ホームページ；徳田，2011 など）．

石狩浜は日本海に面し，対馬暖流の影響下にある，延長およそ 30km の砂浜海岸である．漂着ウミガメの発見地点は石狩川の河口のすぐ南西側である（図 1）．周囲にはほかに特徴的な漂着物は見られなかった．漂着個体は甲長 31cm，甲幅 26cm で，頭部・四肢の欠損はないが全身が乾燥し，ミイラ状であった（図 2）．中村・上野（1963）のウミガメ科の種（属）の検索表を参考に検討したところ，肋甲板が 4 対あり，第 1 対が特に小型ではなく，また項甲板に接しないこと，吻は側扁し，上顎の前端がかぎ状に曲

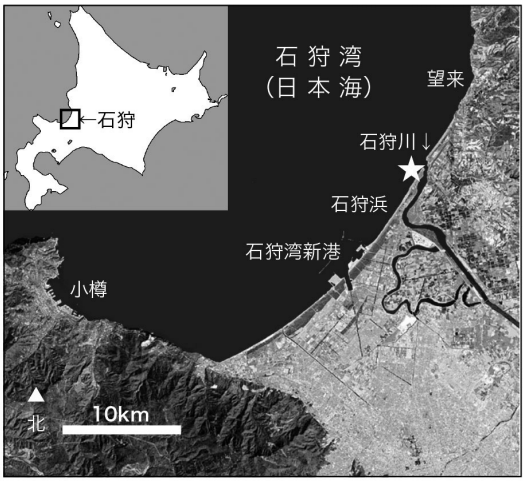

図 1．タイマイと思われる個体の漂着が発見された位置（★）．

図 2．漂着状況（撮影：石橋孝夫さん）．

図 3．背面．

がる，前額板が２対ある点から，タイマイと同定された．また，鋸歯状を示す甲の縁辺部も特徴的であった．雌雄は不明である（図３，４，５）．しかしタイマイは種間雑種が発生しやすく，日本国内でもアカウミガメやアオウミガメとの交雑例が知られている（千石ほか，1996）．亀崎（1983）は，タイマイ×アカウミガメ交雑種では，全体的にはタイマイの形質を呈するものの下顎鱗板がタイマイでは水平方向に１枚の顕著な鱗板があり単純なのに対し，アカウミガメよりは少ないが多数の鱗板より形成されていた例を報告している．また，平手・亀崎（1994）は，タイマイ×アオウミガメ交雑種では，腹甲の色や前肢の爪の数はアオウミガメの特徴を示し，吻端，下顎縁および鱗板の形状についてはタイマイの特徴を発現していたものの，前額板は右側が１枚で左側が２枚という中間形質を示す例を報告している．漂着した今回の個体は，全体的にはタイマイの形質を示しているが，下顎鱗板など一部は鱗相が確認できないため，純血のタイマイか雑種なのかの確定は難しい．しかし，タイマイの血縁個体ではあると思われる．

気象庁の AMeDAS 観測値（「石狩」地点）によると，発見日の前３日間ほどは比較的強い北西風（海から陸の方向）が卓越しており（気象庁ホームページ），海上の漂流物が漂着しやすい気象状況にあった．しかし死骸が乾燥・ミイラ化していることを考えると，それ以前の漂着である可能性がある．観測値は４月 15 日から 19 日にかけて最大風速 10 m前後の強い北西風が続いていたことを示していることから，この漂着個体は発見の１ヶ月ほど前の４月中旬，もしくはそれ以前に，海から陸にかけての強風と強い波浪により石狩浜に漂着し，放置され乾燥したものと考えるほうが自然である．

図 4．頭部の側面．

図 5．頭部上面．

タイマイ漂着の意義

石狩浜周辺でウミガメ類の漂着が確認されるのは，極めて稀である．これまで石狩浜周辺で確認されたのは，2007 年 12 月６日のアカウミガメ（甲長 21cm，志賀・伊藤，2008），2014 年３月下旬に望来の南で発見されたアオウミガメと思われる個体（甲長約 40cm，私信）の２件である．アカウミガメについては，このほかに過去に沿岸の漁網で混獲されたという情報もある．

石狩湾沿岸では，2005 年頃から暖流系漂着物（熱帯～温帯の海域および海岸を起源とする漂着物）が顕著な増加傾向を示している（志賀・伊藤，2008，2011 など）．近年でその傾向が最も顕著だったのは 2010 年および 2012 年だったが（志賀，2013），2014 年も３月には暖流系漂着物の代表，ココヤシ果実の漂着が２個，確認されている（私信）．例年，石狩浜周辺で確認されるココヤシ果実の漂着は，１年間で０個～数個程度であることを考えると，比較的多い漂着数と言える．ウミガメ類はオサガメを除いて熱帯～温

帯海域にしか分布しないにも関わらず，タイマイと思われる個体，アオウミガメ，ココヤシ２個が 2014 年春という同時期に石狩湾沿岸まで北上して漂着したことは，海洋の物理状態に何かしらの変動があったことを示唆している．ただし当時（2014 年３月～５月）の石狩湾周辺の海面水温は決して高くはない（平年並～１℃低い，気象庁ホームページ）ことから，単純に水温だけが要因ではないと思われる．その解明のためには，他の漂着物の状況や各種観測値を検討していく必要がある．

謝辞：今回のタイマイと思われる個体の標本と情報は石橋孝夫さんからいただいた．2014 年のアオウミガメとココヤシの漂着情報は工藤友紀さんからいただいた．ウミガメの同定に際しては，徳田龍弘さん，おたる水族館にご協力をいただいた．皆様に感謝いたします．

引用文献

平手康市・亀崎直樹．1994．アオウミガメとタイマイの雑種について．うみがめニュースレター．（20）：20.

気象庁ホームページ．過去の気象データ検索．http://www．data．jma．go．jp/obd/stats/etrn/index．php

気象庁ホームページ．海洋の健康診断表．http://www．data．jma．go．jp/gmd/kaiyou/shindan/index．html

亀崎直樹．1983．知多半島でふ化したウミガメがアカウミガメとタイマイとの雑種の可能性について．爬虫両棲類学雑誌 10：52-53.

中村健児・上野俊一．1963．原色日本両生爬虫類図鑑．保育社，大阪．214p.

日本ウミガメ協議会ホームページ．死体漂着の状　況．http://www．umigame．org/J1/pg31．htmlumigame_shitai．html

千石正一・疋田努・松井正文・仲谷一宏．1996．日本動物大百科／両生類・爬虫類・軟骨魚類．平凡社，東京都．189p.

志賀健司・伊藤静孝．2008．2007 年に北海道石狩湾沿岸で見られた暖流系漂着物．漂着物学会誌 6：11-16.

志賀健司・伊藤静孝．2011．2005 年～ 2009 年の石狩湾沿岸におけるアオイガイ漂着．いしかり砂丘の風資料館紀要 1：13-19.

志賀健司．2013．北海道石狩湾沿岸に 2010 年と 2012 年に漂着したタコブネ．漂着物学会誌 11：33-34.

徳田龍弘．2011．北海道爬虫類・両生類ハンディ図鑑．北海道新聞社，北海道．95p.

（〒 061-3372 北海道石狩市弁天町 30-4
いしかり砂丘の風資料館）
（Ishikari Local Museum
Bentencho30-4，Ishikari，Hokkaido 061-3372，Japan）

Errata（訂正）：ニホンマムシの遠軽町と紋別市の生息確認について

徳田 龍弘

2014 年 7 月 25 日発行の北海道爬虫両棲類研究報告 VOL．2 の 22，23 ページに掲載された「ニホンマムシの遠軽町と紋別市の生息確認について」（徳田龍弘）について，表中に誤りがありました．お詫び申し上げます．誤りについては下記の通り訂正いたします．

23 ページ　表１：採集したヘビの抜け殻の情報
　誤：B　両端の体鱗列数　15，15
　正：B　両端の体鱗列数　15，19
23 ページ　表１：採集したヘビの抜け殻の情報
　誤：C　両端の体鱗列数　19，21
　正：C　両端の体鱗列数　19，23

（〒 005-0021 北海道札幌市南区真駒内本町７丁目４-27
ばいかだ WILD-PHOTO）